

# 「過ぎた正義」

— 1 稿 —

2026/04/04  
山極 瞭一朗

〈人物表〉

佐渡 <small>さわたり</small>	正義 <small>まさよし</small>	(25)	バー店員
和道 <small>わどう</small>	みきな	(32)	刑事
箸屋 <small>はしや</small>	麗華 <small>れいか</small>	(25)	刑事／みきなの後輩
相木 <small>あいき</small>	愛 <small>あい</small>	(31)	バー店長
加賀谷 <small>かがや</small>	和子 <small>わこ</small>	(24)	会社員
御堂 <small>みどう</small>	一世 <small>いっせい</small>	(56)	銀行員
佐渡 <small>さわたり</small>	正恵 <small>まさえ</small>	(72)	正義の祖母

1. 高架下の道（朝）

電車が駆け抜ける。

どこからともなく蝉の泣き声が聞こえる。

御堂一世（56）、しきりに背後を気にしながら走っている。額にはじっとりと滲む汗。息を切らしている。

佐渡正義（25）、真っ直ぐに御堂を見つめ、追いかける。その拳は固く握られている。

行き止まり。

御堂、立ち止まり、背後を振り向く。ハッとする。

眼前に正義。

御堂 「ま、待ってくれ——」

正義 「あなたは間違ってる」

正義、拳を突き出す。

2. 高架下の道（昼）

サイレンが鳴り響いている。

規制線が張られており、外側には野次馬たちがたむろしている。

ブルーシートに囲まれた一角、警官たちが御堂の遺体を取り囲んでいる。頭から血。顔面を殴打され、赤く腫れあがっている。

箸屋麗華（27）、遺体に合掌している。

和道みきな（32）、ハンディファン片手に入る。

そしてさっと胸ポケットにしまい、合掌。麗華を一瞥して、

みきな 「身元は？」

麗華 「御堂一世。光明銀行経伝支店の副支店長です」

みきな 「経伝……」

と、向こうを見やる。ハンディファンを手に取り、

みきな 「わざわざ一駅手前で降りたのか。クソ暑いのに」

麗華 「それが、今朝トラブルがあったようでした」

みきな 「？」

3. バー・外観（深夜）

「CLOSED」の看板。

4. バー・店内（深夜）

エアコンには「故障中」の張り紙。扇風機がけたたましい音を立てている。

正義、せかせかと掃除している。手を止め、汗を拭う。その手には包帯。

カウンターの内側で頭を抱える相木愛（31）、徐々に正義を見る。ため息を漏らして、

愛 「いつまでやってんの？」

正義 「まだ汚れてるんで」

愛 「いやだから、さっき私言ったよね」

正義、テーブルを拭きながら、

正義 「ごめんなさい、なんて言いましたっけ？」

愛 「今日はもう遅いから——」

正義、食い気味に、

正義 「でも、きれいにした方がいいかなって。明日またお客さんくるし」

愛、ため息をつく。

正義、思い出したように手を叩いて、

正義 「エアコン、僕が直しましょうか」

愛 「あのさ」

正義 「はい」

愛 「はつきり言っていない？」

正義 「できればオブラートでお願いします」

愛 「ありがた迷惑」

正義 「え？」

愛 「言われたことだけやって」

正義 「いやでも——」

愛 「それ以上こと、求めてないから」

正義、よくわからず、ぽかんと口を開けている。

5. 佐渡家・外観（朝）

平屋建ての日本家屋。

6. 佐渡家・居間（朝）

縁側に吊るされた風鈴が、風に吹かれて、呑気に音を立てている。

佐渡正恵（72）、お茶を啜りながら正義の話を聞いている。

正義の語り口には熱がこもっていて、

正義 「これって優しさだね」

正恵、菩薩のような笑みで頷く。

正義 「エアコンなんて直した方がいいし、お客さんのためだよ」

正恵 「マサくんは優しい子だねえ」

正義 「でしょ。だから言っちゃったんだよ。善意だよって」

正恵 「マサくんは正しい」

正義 「おばあちゃんもそう思うよね」

正恵 「さすが正道の息子だ。おばあちゃん誇らしいよ」

正義 「でしょ。やっぱりおばあちゃんはほんと僕のこと、よく

わかってる」

正恵、お茶を啜り、大きく頷く。

正義 「あ、あとね、おばあちゃん。この前電車で痴漢してる人がいてさ——」

どこかでミンミンと蝉が鳴いている。

7. フィットネスジム・中（昼）

加賀谷和子（24）、ランニングマシンに乗り、走っている。

傍にはみきなど麗華。

麗華はスマホを和子に見せている。

画面、防犯カメラの映像。駅のホーム、御堂の胸倉を掴む正義の姿。

和子、停止ボタンを押す。マシンから降りて、ベンチに座る。汗を拭って、

和子 「私、頼んでませんから」

と、迷惑そうに、

和子 「よく見てくるんですよ、いやらしい目で」

和子、画面の御堂を指さす。

和子 「それに距離も近かったし。他の席空いてるのに隣に座ってきたり。でも、なんかされたわけじゃないし、我慢の範疇というか。それなのに——」

画面、御堂が逃げ出す。すかさず正義は追いかける。

麗華、動画を一時停止。

麗華 「では、この男のことは？」

和子 「知りませんよ。急に『離れろ』って怒鳴って。何度も言いますけど、我慢の範疇だったんですよ、私は」

と、ごくりと水を飲む。

麗華 「恨んでいたとかは？」

和子 「あり得ませんって。本当に」

露骨に顔を歪める。

## 8. ジム近くの道（昼）

ハンディファンを片手に歩いているみきな。

隣には、麗華。

麗華 「度が過ぎてますよね」

みきな 「お前ならどうする？」

麗華 「私は……何もしないです」

みきな 「それでも警察官か」

麗華 「いやもちろん、痴漢をしたら捕まえますよ。でもさすがに未然には。注意だけならまだしも」

みきな 「殺してる」

麗華 「心理が理解できません」

みきな 「正しいことをしたと思ってるのかもな」

麗華 「正義ってことですか？」

みきな 「行き過ぎた正義感」

麗華、苦笑する。

みきな、麗華を一瞥して、風力を強める。

正義、掃除している。

エアコンは修理されたようで、稼働している。

愛、何か言いたそうに正義を見るが、やめる。

みきなど麗華、入る。

愛 「すみません、まだ準備中で」

麗華、警察手帳を提示して、

麗華 「こういうものでして」

正義、構わず掃除を続けている。

麗華 「佐渡正義さん、お勤めですよね」

正義、手を止める。

みきな、正義を見やる。

愛 「佐渡なら……」

正義、ポカンとしている。

みきな、正義に近づき、

みきな 「佐渡さん？」

正義 「あなたは？」

みきな 「和道といます」

正義 「和道さん」

みきな 「先日起きた、事件のことについてお伺いしたいのですが」

正義 「事件？」

麗華 「豪秀寺駅近くで起きた、殺人事件についてです」

愛、ハツとして息を呑む。

麗華 「あなた、事件の少し前、被害者とトラブルを起こしてま

すよね」

正義 「トラブル？」

みきな 「痴漢未遂を注意した」

正義、思い出したように、大きく手を叩く。

正義 「はい、助けました」

麗華 「助けた？」

正義 「放っておけば、間違いなく痴漢したので」

麗華 「その根拠は？」

正義 「本人が認めました。やはり注意して正解でした」

みきな、ぐっと正義に近づき、

みきな 「その彼が遺体となって発見された。あなたが殺したんですね」

正義、いたって平然と、

正義 「ですから、彼女を助けるためにしたことです」

みきな 「認めるということですね」

正義 「これは善意であり、正義ですよ、刑事さん」

みきな、ピクッと頬を歪める。

正義、満足そうに頷く。

(終わり)